



Global Studies Initiative
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

第8回

「哲学の希望——世界哲学から」

中島 隆博 東京大学東洋文化研究所教授

司会 田辺明生 (総合文化研究科 超域文化科学専攻)

討論者 伊達聖伸 (総合文化研究科 地域文化研究専攻)
國分功一郎 (総合文化研究科 超域文化科学専攻)

使用言語 日本語

日時・会場

2020年12月15日 (火) 14:55 - 16:40

Zoom Webinar (下記URLからご登録ください。)

<https://bit.ly/2HYTZ6W>

要旨

世界哲学という新しい運動から自分のこれまでの研究を振り返ると、1) 地域哲学としての中国哲学研究、2) 19世紀的な学知に由来する比較哲学研究、3) 在来もしくは土着の理論を核にしながらも普遍化に寄与する世界哲学という、三つのフェーズに区分できるかと思っています。1) では、オリエンタリズム的な視線を内面化した中国哲学研究をどう脱構築するかを主として考えてきました。2) では、比較をすることで安心するのではなく、逆に、複数の概念を揺り動かして、そのあらたな可能性を開こうとしてきました。そのために、概念が旅をしてきたその軌跡を辿ることが重要な視点になったのです。そして、3) では、「グローバル」という全体化するようなアプローチではなく、世界という地平概念を鍛え直し、もう一度普遍的であることの意味を考え直そうとしました。

その上で、もう一度「哲学」を問い直してみたいと考えています。それはphilosophyに訳し直すこともできるでしょうが、別の可能性、とりわけ「希哲学」という翻訳に込められた「希望」に繋がる可能性を考えてみたいのです。

主催 東京大学グローバル地域研究機構 (IAGS)